

名古屋市における神社の立地に関する一考察

大同工業大学 正員 舟渡悦夫
大同工業大学 ○ 岡部好伸
大同工業大学 上原和也

1. はじめに

上田篤¹⁾が、その著書「鎮守の森」において説くように、神社空間には種々の価値がある。その価値の中には、公共的な施策や民間の活動行為によるサービスの提供で代替できるものとできないものがある。本研究は、神社空間が有するそのような価値、あるいは機能とは何かについて検討するための基礎的な作業として、位置づけるものである。

本研究内容は、大都市の市街地に立地している神社が、どの程度の面積規模で幾つ有るのか、さらに神社が立地する土地利用はどのような用途規制がかかっており、隣接する都市施設にはどのようなものがあるのかを調べたものであり、「住民による神社の利用と神社空間の活用策の検討」に向けての調査研究の資料とすることを研究目的としている。

なお、本研究を進めるに当たっては、既存の統計資料^{2)、3)}、名古屋市の都市計画図(地域制図)、住宅地図などを元資料とした神社データを作成し、集計分析を行った。また、今回報告する具体的な分析項目は、以下の4項目である。

- ① 区別にみた神社と公園の面積
- ② 区別にみた神社の境内面積の規模
- ③ 神社が位置する用途地域の実態
- ④ 神社に隣接する都市施設の実態

④神社に隣接する都市施設の実態

2. 名古屋市における神社立地の特性

1) 神社と公園の面積

平成4年発行の「愛知県神社名鑑」によれば、名古屋市内における神社の数は412社、その境内地面積の総計は113haである。この面積を、平成7年における名古屋市の街区公園数1019箇所、その総面積234haと比較すると、数にして40%、面積にして48%の規模となる。さらに、基幹公園の全面積と比較すると13%の大きさである。

図-1は、区別に神社、街区公園などの面積を示したものである。昭和区と熱田区においては、境内面積の広い神社があることにより、神社面積の方が街区公園の面積を上回っている。基幹公園面積に対する神社境内面積の比が高い地区をみると、熱田区(67)、緑区(25)、昭和区(22)、千種区(18)となるが、千種区については公園面積が小さいこと、他の3区では神社面積が大きいことが原因となっている。

2) 神社の境内面積の規模

神社境内は、本殿・拝殿・社務所などの建築物と参道ならびに樹林地から構成されるが、名古屋市内の神社の場合、建築物の占める割合は約20%であり、

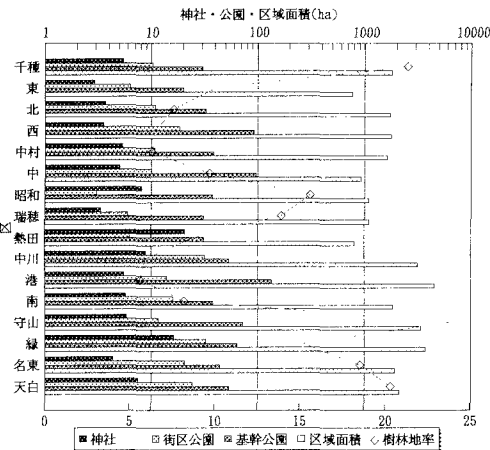


図-1 区別にみた神社、公園の面積

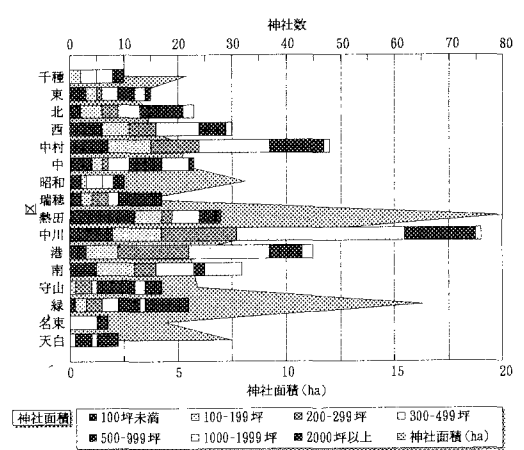


図-2 神社の境内面積規模別にみた神社数

残りの80%が参道・樹林地が占めている。

図-2は、神社境内の面積規模別の神社数を区別に表したものである。名古屋市内の神社の67%は、500坪以下の面積規模であり、200坪以下の面積規模の神社が30%もある。街区公園の標準面積0.25ha(760坪)を越える境内面積を有する神社は20%しかなく、大半の神社が狭小な神社であり、樹林に囲まれた神社というイメージからほど遠いことがわかる。特に、中村区、中川区は、神社数は多いものの、境内面積が小さい神社が多いことがわかる。

3) 神社の位置する用途地域

神社は古来、住居や人間の生産活動の場とは隔絶した場所を選定し、立地していたと思われるが、地域の市街化が進展する中、住宅街、繁華街、工場街に位置する神社も珍しいものではなくなった。

都市計画法の用途地域制における建築物の用途制限という視点からみても、神社や寺院の立地については何ら制限はない。図-3は、市街化区域内にある神社が、どのような用途地域(1992年改正前のもの)に位置しているかを示したものである。

名古屋市内の神社は、住居系用途地域(第1・2住専・住居)に61%、商業系(近隣商業・商業)に22%、準工業系地域に10%が位置している。なかでも、境内面積が広い神社は、住居系用途地域での構成率が高く、商業系用途地域では100坪以下の狭小な境内神社が多いことがわかる。また、風致地区、ならびに特別工業地区内にある神社は、各1社ある。

4) 神社の隣接施設

市街地における神社境内は、道路や小学校、公民館など公共的な都市施設用地として供出されることが多かった。図-4は、神社に隣接あるいは道一つ隔てて対面する都市施設の種類をみたものである。

名古屋市内の約37%の神社が何らかの施設に隣接しており、公園と寺が多くいずれも13%の神社に隣接している。次いで、学校、公民館が多く隣接している。また、公園・寺・学校と隣接関係にある神社の境内規模は、500坪以上の比較的大きな神社の割合がやや高くなっている。

3. まとめ

名古屋市内における神社立地の実態についての結果をまとめると、以下のようである。

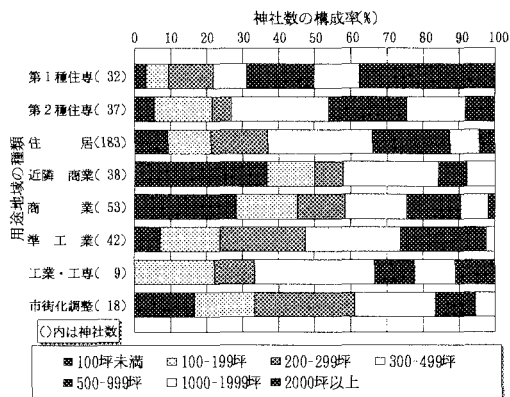


図-3 用途地域別にみた神社数

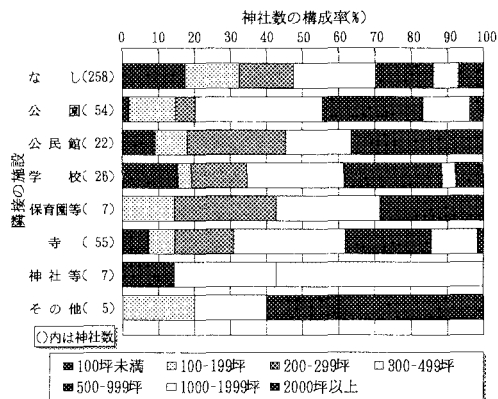


図-4 隣接施設別にみた神社数

- ①神社境内面積は街区公園面積の48%、基幹公園面積の13%に相当する大きさを有している。
- ②神社の67%は500坪以下の狭い面積規模にあり、760坪を越える神社は20%しかない。
- ③住居系用途地域に61%の神社が立地し、その境内面積はやや広いが、22%の神社が立地する商業系用途地域では100坪以下の狭小な境内神社が多い。
- ④約37%の神社が都市施設に隣接しており、公園と寺が多く、次いで学校、公民館の順に多い。

なお、今後、神社と公園の利用についての住民意識調査を行い、神社空間の問題点ならびに地域における役割について、検討を進める予定である。

[参考資料]

- 1)鎮守の森：上田篤編，鹿島出版会，1984年
- 2)名古屋の公園：名古屋市農政緑地局，1995年版
- 3)愛知県神社名鑑：愛知県神社庁，1992年